

# ら しん ばん 羅 針 盤



## 進路だより 第三号

平成 22 年 7 月 15 日(木)発行  
福島県立双葉高等学校 進路指導部

7月6日、7日と二日間、おおいに盛り上がった校内球技大会も終わり、3年生にとっては「夏を制する者は受験を制す」というべき夏休みがよいよ始まります。まずは自分の力を把握するところから始まり、しっかりした学習計画を立て、3年生はいうまでもなく1、2年生にとっても有意義な5週間にしてほしいと思います。

### 夏休みの学習法

#### ・まずは自分の力を客観的に把握する

模擬試験、定期テスト等の結果から、弱点教科、弱点分野をチェックし、何をすべきか見極めよう。志望校の現時点での合格可能性も一応把握しておくが、たとえD判定でもあせる必要はない。D判定で合格した先輩はいくらでもいる。C、Bにするためにこの夏休みがあるのだ。

#### ・優先順位をつける

5週間は長いようで、やり方によってはあっという間だ。あれもこれもと中途半端に欲張らないで、効率的に力をつけるために優先順位をつけることが重要だ。自分の弱点科目、弱点分野はもちろん、3年生ならば志望校の受験科目配点なども考慮して(入試で高配点の科目を優先させるなど)順位をつけて欲しい。(1、2年生は夏休みの課題が最優先)

#### ・きちんとした計画を立てる

それだけでなくも熱い夏休み、計画なくしては三日と続くはずがない。をふまえてしっかりした計画を立てよう。その際のポイントを4点あげると、

週単位で予定表を作り、予定通り行かなかったことも考え予備日を設けておく(あまり無理な計画にならないように)

まとまった時間で、弱点を克服する

暗記事項は、毎日決まった時間に短時間でやる

遅れは1週間以内に取り戻す(予備日等を利用して)

#### ・後は計画に従って実行あるのみ

モチベーションを高め、合格を勝ちとる勉強をやりぬくために

しっかりとした計画を立ていざ実行となる

わけですが、実行するうえでもう一つ大切なことがあります。いかにモチベーションを高め、それを継続できるかということです。以下にそのためのポイントを述べます。

1. 入試情報を可能な限り収集する
2. 本気で行きたい志望校を見つける
3. オープンキャンパスへの参加
4. 目標をできるだけ具体化する
5. 周りに惑わされずに、常に自分のペースで勉強する

「誰のためでもない、自分自身の進路希望達成のために、この夏を充実感ある日々にしよう。」

### 就職希望のあなたに

昨年度は、経済状況の悪化から就職希望の生徒にとっては非常に厳しい年でしたが、その後経済状況が急に良くなる兆候は特になく、今年度も就職希望者にとっては、依然として厳しい年となりそうです。そんな中、自分の志望する会社に合格するためには、事前にしっかりと準備しなければなりません。(夏休み明けまもなく9月16日が企業の選考日開始の日ですので、あまり時間はありません)

自分の性格、適性等をあらためてよく考えて志望する会社を決める(求人票は7月1日から随時きています。夏休み中も時々学校に来て求人票をチェックする。特に職種、給料、労働条件、福利厚生等をチェック)

受験報告書(進路室にあります)で自分の志望する会社の筆記試験の内容、面接方法・内容を調べ、その準備(勉強)をする。

志望する会社についてできるだけ調べ、志望理由をまとめておく

面接のシミュレーションをしておく

(9月1日から模擬面接が始まります)

みなさんにとって「偏差値」は自分の模試の成績、大学の難易度などでなじみ深い言葉のはずですが、ある生徒に「偏差値」って本当のところなんですかと聞かれました。なじみ深いのに以外にわかっていない生徒が多いのでは。そこでこの裏にできるだけわかりやすく? 「偏差値」について書くことにしました。裏面も読んでね。

## 「偏差値」とは

たとえば、A君の5月に受験した模試の3教科総合得点が170点、更に7月に受験した模試の3教科総合得点が180点だった場合、はたしてA君の学力は「伸びた」と判断できるでしょうか。得点を見る限りでは前回よりも10点アップしたわけですが、答えは「ノー」です。なぜなら各回の受験生全体の平均がわからないというのが一つの理由です。もしも5月のテストの平均点は167点、7月のテストのそれは182点だったとしたら、A君は5月のテストでは平均点を上回る成績であり、7月では平均点以下の得点となり、受験生全体のなかでいえばA君の成績は5月のほうがよかったということになります。このように、試験問題の難易度の目安となる平均点を無視して単に得点のみを比較するだけでは確な判断はできません。

	5月	7月
得点	170	180
平均点	167	182

⇒ 5月のほうが良かった  
(7月はやや下がった)

では平均点さえわかればいいのかというと、決して十分ではありません。もう一つ重要な要素が必要なのです。仮に、A君の5月と7月に受けたテストの平均点はいずれも150点だったとします。この場合、平均点と同じなので高得点をとった7月のテストをみて、成績がアップしたと考えるのが普通でしょう。ところが得点と平均点だけで判断するのも無理があるのです。受験生全体の得点のバラツキ具合(分布状況)がわからないからです。バラツキ状況に対して一定のルールに従って処理を施し、平均点からの離れ具合とその出現率の関係を算出できる数値、それが「標準偏差」といわれるものです。概念的には、得点分布の右端から左端までの長さを5~6等分した時の長さ(点数幅)が、ほぼ標準偏差の数値になります。ですから標準偏差が大きいということは、分布曲線のヤマのすその幅が広い、すなわちそのテストを受けた受験生の集団の成績に大きなバラツキがあることを表しています。反対に小さければ、受験生集団の成績が平均点の近くにかなり集中していて、学力格差が少ないことを意味します。

さて「偏差値」ですが、端的に言えばヤマ型の得点分布のなかで平均点と標準偏差の2つの条件を用いて、基準を同一にして(ヤマの型を同じにして)各受験生の得点から導き出された「全体のなかでの学力の位置」を示す値ということになります。中心のポイントを常に50と定め、ヤマ型のすその幅の広い、狭いを、標準偏差を使って同一基準に変換し、テストの受験生全体の学力の中央の部分から、どれくらい上位あるいは下位に偏っているかを推しはかっている数値なのです。「偏差値」とは得点でも順位でもありません。バラツキのある得点分布のなかで中心からどれくらい偏っているかを表す数値で、成績をいつも同じ基準で表現できる最も利にかなった「モノサシ」といえます。

以下に「偏差値」を求める式を示します。

$$\text{偏差値} = \frac{10 \times (\text{得点} - \text{平均点})}{\text{標準偏差}} + 50 \quad (\text{偏差値} 40 \sim 60 \text{までの間に} 100 \text{人中約} 68 \text{人入ります。})$$

ここで、話を元に戻してあらためてA君の5月と7月のテストについて考えてみましょう。5月の得点が170点、7月の得点が180点でテストの平均点は2回とも同じ150点です。さらに標準偏差が5月は20点、7月は30点だったとします。それぞれの「偏差値」はいくつになるでしょう。(A君は5月より7月は成績がアップしたのでしょうか。)

	5月	7月
得点	170	180
平均点	150	150
標準偏差	20	30

⇒ 5月より7月は成績がアップした?

答えは表のページの一番下にあります。